

TRC MARCの 事前書誌登録について

平成24年度 NACSIS-CAT/ILL ワークショップ
1 班（池上・柿本・山本・吉村）

問題提起

現状では、新規書誌作成と書誌調整に
人手（コスト）が掛かり過ぎている…



書誌レコードの質向上とカタログガーの
負担軽減を図る方法とは？

解決方法の提案

【提案】

TRC MARCの一括登録

【期待される効果】

目録業務の簡素化（労力約1割減？）
とサービスの豊富化

具体案について①

◎ TRC MARC(daily)を最速で一括登録

(目録業務の簡素化と重複書誌発生の最小限抑制を両立)

◎ TRC MARC一括登録を開始に当たり 一出版物理単位＝一書誌単位とする

(TRC MARCをはじめとする多くの外部書誌DBと書誌単位を揃えることで、データのやり取りがしやすくなる)

◎ 既存書誌レコードは機械的に置換

具体案について②

◎ 書誌レコード修正手順の見直し

- ◎ 全項目「発見館修正可」とする★
- ◎ フィールド単位で修正履歴を残す◆
- ◎ 修正理由を残す◆
- ◎ 後から「今月の書誌修正」で各館チェックをする★

★：権限の分散化を図るため

◆：責任の明確化を図るため

具体案について③

◎ 「今月の書誌修正」

- ◎ ネット上の任意の場所に「今月の書誌修正」を設ける
- ◎ ひと月に起きた書誌修正について、フィールド別に優先順位を付けた一覧表が置かれるので、各館は自館所蔵分のチェックを行う

実行モデル①

目録業務の基本フロー

7

書誌作成

TRC MARC

- 簡** 機械的に形式変換・一括登録
- 簡** 一出版物理単位=一書誌単位とする
- 簡** リンクフィールド(PTBL・AL・UTL)は記述フィールドとする
- 富** 契約・変換ルールの見直しにより、目次情報・内容細目等の取得を確実に

NDL書誌

- 富** 機械名寄せで同定・件名標目を取得
→NDL書誌以外をソースに様々な情報を取得することも視野に

BOOK

所蔵登録

書誌修正
書誌調整

目録業務の簡素化

サービスとデータの豊富化を目指す

- 簡** 修正事項は全項目発見館修正可とし、個別の書誌調整・修正報告は行わない
- 富** 修正履歴を保持するシステムとする
→ 書誌ID・修正館ID・修正日時・修正項目名・修正前の値・修正後の値・修正理由・備考etc.
- 簡** 参加館ごとに、所蔵のある書誌に関する一ヶ月分の修正内容をまとめて確認・ダウンロードできるようにする
→「今月の書誌修正」全所蔵館で確認

既存書誌レコードの変換

8

書誌構造変更に伴う混乱を防ぐ

既存レコード

VOLG①

(VOL+ISBN+XISBN+PRICE)

VOLG②

(VOL+ISBN+XISBN+PRICE)

VOLG③

(VOL+ISBN+XISBN+PRICE)

⋮

- ・既存レコードをVOLGごとに分割する
- ・VOLG以外の項目は原則としてそのままコピーする, ただし数量を「冊」「v.」とするなど機械的に処理可能な表現の変換は行う

変換レコード①

VOLG①

(VOL+ISBN+XISBN+PRICE)

変換レコード②

VOLG②

(VOL+ISBN+XISBN+PRICE)

変換レコード③

VOLG③

(VOL+ISBN+XISBN+PRICE)

メリット①

◎ 目録業務の簡素化

- ◎ カタロガーの作業速度向上(浮いた時間で別業務が行える)
- ◎ 利用者への提供速度向上

メリット②

◎ レコード調整の簡素化

- ◎ 個別のレコード調整が不要になる（発見館修正可のため）
- ◎ 修正責任が明確になる（修正履歴が残るため）
- ◎ カタロガーとしてのスキルを継承・伝達できる（修正理由が残るため）

◎ 提供情報の豊富化

- ◎ 利用者の得られる情報量が豊富になる

(TRC MARCやNDL書誌の一層の活用により, 件名・目次等をより確実に提供できる)

- ◎ 出版物理単位の書誌事項も提供できる

今後の課題①

◎ 短期課題

- ◎ 書誌構造変更の周知（対利用者・対図書館員）
- ◎ イレギュラーな所蔵レコードの取り扱い
（書誌VOLと所蔵VOLが正しく対応していない場合等）
- ◎ 解釈の分かれる修正について修正合戦が起きる可能性がある

今後の課題②

◎ 長期課題

- ◎ 機械名寄せの精度を確保するための検討
- ◎ TRC MARC以外の外部書誌データ一括登録の検討
- ◎ 書誌修正におけるコストが充分下がらない（ないしは上昇する？）

以上で終わります

ご清聴，ありがとうございました。

